

AJEQ ニュースレター

夏季号の内容

国際フランコフォニー大会への参加：小畑・小倉
AJEQ 留学・研究助成金受給者決定：寺家村
会員報告1・国際ケベック学会のシンポジウムに出席：古地
会員報告2・写真展とイベント：安田、AJEQ 新役員のリスト

国際フランコフォニー大会への参加

モントリオールで、6月27日から7月4日まで、国際フランコフォニー学会（CIEF）2010年度世界大会が開かれ、AJEQからは小畑精和会長と小倉和子理事が参加した。

アカディア出身の作家であるAntonine Mailletによる感動的なスピーチで開幕した大会は、7日間にわたって90以上のセッションに分かれ、300名近い研究者たちの発表が行われた大規模なものだった。テーマは、移民文学を始めとして、フランス語圏各地域の文学、それらにおける女性作家やアイデンティティ形成の問題、文学と映像、旅行文学、言語学、翻訳、フランス語教育・・・とじつに多岐にわたっていた。

また、研究発表の他にも、ケベックの推理小説に関するシンポジウムや、作家とのランコントル、映画上映、ジャズの生演奏や詩の朗読など、盛り沢山な催しが用意されていた。

まず7月1日午後の第4セッションで、小畑会長が「Trois mémoires des

écrivains québécois d'origine asiatique : Aki Shimazaki, Ook Chung et Ying Chen」という研究発表を行い、主としてアキ・シマザキの『秘密の重み』の根底に横たわる歴史や個人の記憶の闇に注目し、そこから日本社会にたいするシマザキの批判的な眼差しを引き出した。

次に7月2日午前の第3セッションで、小倉理事が「Paysages, désir et délivrance dans *Les Fous de Bassan* d'Anne Hébert」と題された研究発表を行い、アンヌ・エベールの『シロカツオドリ』において、ガスペ半島の広大な海景が登場人物の心性に及ぼす影響を分析した。

これらのセッションは、色々な大学の研究者の応援を得て日韓両ケベック学会員が共催したセッションで、それぞれの報告後には活発な意見交換が行われ、一昨年来の両学会の交流がモントリオールに場を移して熱く繰り広げられた有意義なものだった。——小畑精和・小倉和子



大会後の日韓両ケベック学会員の交流

日本ケベック学会(AJEQ)とは

「日本ケベック学会」(AJEQ)は、日本でのケベック・フランコフォニーに関する学術研究・芸術文化交流などを振興し推進する学会です。ケベックやフランコフォニーにご興味のある方の参加をお待ちしています。

学会活動の詳細は以下のホームページ(HP)とブログをご覧ください。

HP: <http://www.ajeqsite.org/>

ブログ: <http://ajeq.blog26.fc2.com>

AJEQ 留学・研究助成金受給者決定

2010年度の日本ケベック学会(在日ケベック州政府事務所支援)の「留学・研究助成金」の受給者が、厳正かつ公正な審査の結果、鈴木智子氏と陶山宣明氏に決定した。

鈴木智子氏は現在明治学院大学大学院文学研究科に籍を置き、ケベック児童文学に関する課程博士論文提出に向けて日々研鑽を積んでいる。本助成金でモントリオール大学を中心に専門家の助言を得つつ、現地調査

を行う予定である。

陶山宣明氏は現在帝京平成大学常勤講師の職にあり、ケベックの政治、それに伴う社会情勢に深い関心を持っている。本助成金で主としてケベック州立図書館や州立古文書館などで資料収集にあたる予定である。

最後に本助成金によるケベックでの滞在が両氏にとって、実り多いものになることを祈念する次第である。選考委員会代表 寺家村博

会員報告1:国際ケベック学会のシンポジウムに出席 古地順一郎

去る5月25、26日の2日間、モントリオールのコンコルディア大学で、国際ケベック学会(AIEQ)のシンポジウム『国際ケベック学会のネットワークを通じたケベック研究—その未来とは』が開催された。今回のシンポジウムは、今後のケベック研究の方向性を探ることを第一義的な目的とする一方、次世代のケベック研究を担う若手研究者を育成するために、AIEQがどのようなテーマに力を入れるべきかを探ることも兼ねていた。このような問題意識のもと、7つの主要な既存研究テーマ(人口、移民、言語、宗教、政治、歴史、文学)に、近年関心の高まっている環境を加え、各分野における研究の現状が検討された。

さまざまな分野の発表で印象に残ったのは、比較研究の重要性に対する指摘であった。簡潔に言えば、これまでのケベック研究は、「ケベック」という現象の特殊性をさまざまな角度から理解することに努めてきたが、今後

の研究は、ケベックの特殊性の中に普遍性を見出す作業が重要であり、そのためには他の地域や国との比較研究が不可欠となってくる、という意見である。

上述した課題は、日本ケベック学会の会員にとっても、今後の研究活動の方向性を考える上で、示唆に富むものと思われる。例えば、日本との比較という視点を提供することで、ケベック研究の発展に貢献することも可能だろう。その際、フランス語や英語での積極的な発信が一層重要になってくるとと思われる。AIEQは、外国人会員に対して、学会発表や出版助成を行っているので、これらも積極的に利用すると良いだろう。入会については、AIEQのウェブサイト(<http://www.aieq.qc.ca>)を参照されたい。

古地順一郎(オタワ大学大学院)

(以上は投稿の抜粋で、全文は以下を参照)

<http://ajeq.blog26.fc2.com/blog-entry-37.html/>)

会員報告2:写真展とイベント 安田敬

7月19日～24日に、銀座八丁目のギャラリーで、写真展「安田敬・写真作品展:路上のソリスト—イメージ・オブ・ボディ」を開催した。特に、モントリオール出身の著名な振付家ポール＝アンドレ・フォルティエ氏の「30x30」の路上パフォーマンス作品の展示が目された。

なお秋には、カナダ大使館が、「ジャカード2x2:モントリオール:東京」を、9月9日から11月3日まで開催する。コンピュータ連動のジャカード織りアーティストとして世界的に評価されているLouise Lemieux-Berubeと、彼女がディレクターを務めるモントリオール現代テキスタイルセンターのワークショップに参加したJulianna Joos、阿久津光子、中野恵美子の作品が展示され、舞踊家のパフォーマンスも予定されている。安田敬(ダンスカフェ)

AJEQの新しい役員のリスト

7月に行われたAJEQの次期役員選挙の結果、以下のよう新しい役員が決まりました。

ただし、正式な決定と発表は、10月2日の大会においてなされ、任期は2010年10月1日から2012年9月30日までの2年間となります。

会長:小畑精和

副会長:小倉和子、立花英裕

監事:池内光久、曾田修司

顧問:Suzanne Ethier

理事:加納由紀子、小松祐子、真田桂子、寺家村博、竹中豊、伊達聖伸、丹羽卓、長谷川秀樹、宮尾尊弘、安田敬、矢頭典枝、山出裕子

以上、よろしくお願ひいたします、

後記

皆様のおかげで、ニュースレター 2010 年夏季号も無事刊行できました。今回は、国際フランコフォニー大会の報告や、AJEQ 留学・研究助成金受給者の発表や、会員からの報告など、盛りだくさんです。これからもご愛読いただくとともに、ご報告もどんどんお寄せください。加納

AJEQニュースレター

年3回発行
発行人・小畑精和
編集人・加納由起子
日本ケベック学会
ajeq_ca@yahoo.co.jp

AJEQ ホームページ

日本でのケベックおよび
フランコフォニーに関する
学術研究・芸術文化交流を
振興し推進する学会のHP
<http://www.ajeqsite.org>

日本ケベック学会(10年10月～)

●主要役員

小畑精和(会長)	●広報HP担当
小倉和子(副会長)	加納由紀子
立花英裕(副会長)	小松祐子
池内光久(監事)	安田敬
曾田修司(監事)	宮尾尊弘
S. Ethier(顧問)	